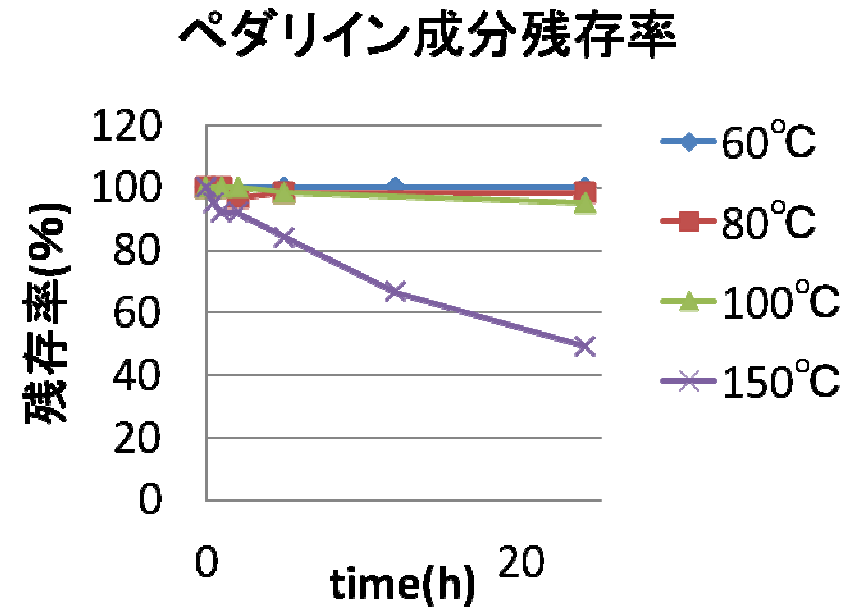
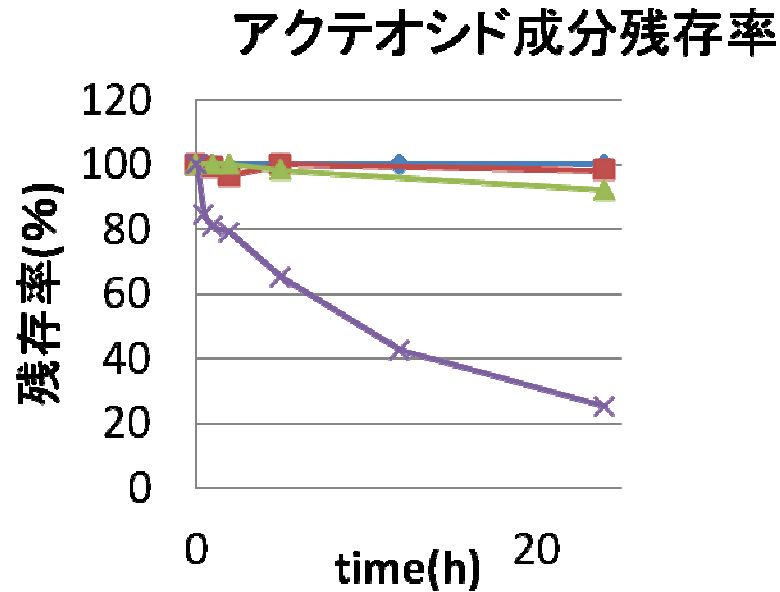


胡麻若葉粉末の加熱安定性について

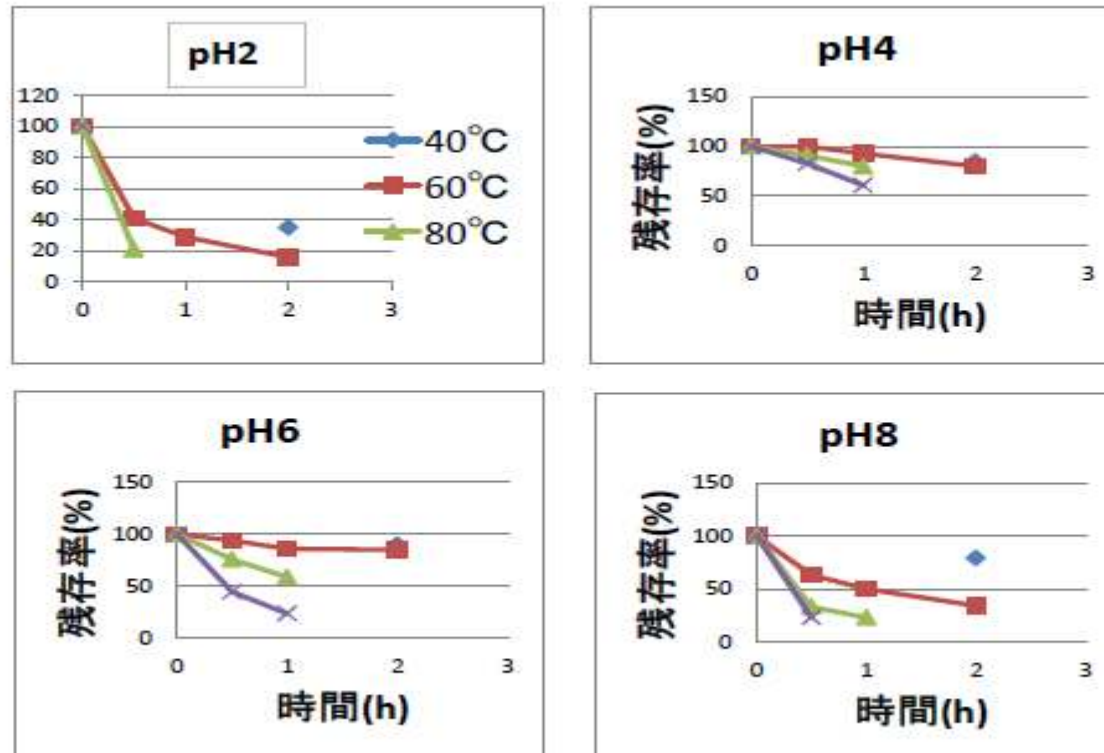


粉末試料:ゴマ若葉殺菌粉碎品(2007年供試試料)
加熱後の試料からの抽出には水(常温)を用いた。

ゴマ若葉粉末そのものを各条件下で加熱したところ、粉末状態では100°Cまでの加熱においてアクトオシド、ペタリンは安定でした。

※胡麻若葉サンプルは加熱粉末100 mgに水100 mL*を加え、水で抽出し、遠心分離機により原料の繊維質等沈殿物を除去したものをサンプルとしました

胡麻若葉成分(アクテオシド)の水溶液中の熱安定性に及ぼすpHの影響



■ 胡麻若葉への抽出溶液中のアクテオシドの加熱安定性は、中性域では不安定ですが、PH4であれば40°C~95°Cにおいて安定と考えられます。

※ゴマ若葉粉末はBritton-robinsonの広域緩衝液(pH2, 4, 6, 8)で処理し、その抽出液を加熱し、Act・の安定性を観察しました。

Act-Pedの抽出・分析方法

試料粉末 (0.1 g)

60% メタノール (100 mL) 水 or Britton-robinson buffer

超音波15分

遠心分離 (2500 rpm, 5分) × 2

HPLC

Waters XBridgeカラム (4.6 × 150 mm, 5 μm)

溶媒A: 0.1%ギ酸

溶媒B: アセトニトリル (0.1%ギ酸含有)

5-35%B (0-15 min), 35-80% (15-40 min)

流速: 0.8 mL/min

カラム温度: 40 °C

試料注入量: 10 μL